

令和7年度 江戸川区立下鎌田小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	一しなやかで、たくましい心とからだを育む下鎌田小 ○思いやりのある子 ○よく考える子 ○明るく元気な子	目指す学校像 ○自分のめあてに向かって最後までやり通す子供 ○友達との競い合いを通して、自己を尊重できる子供 目指す生徒像 ○探究心が旺盛で、何事にもチャレンジし、失敗してもへこたれない子供 目指す教師像 ○美しいものに感動する豊かな感性をもつ子供
前年度までの本校の現状	成果 ○統合1年目は実施できなかった遠足や持久走大会を実施し、特別活動の充実を図ることができた。 ○校内研究を算数にするとともに、学力向上の取組を算数を中心に展開し、基礎学力の底上げを図った。 ○体力テストでは96項目中66項目が東京都平均を上回った。	課題 ○運動会の参観方法など課題が残った。 ○全国学力調査では全国平均程度、更なる取り組みが必要。 ○児童数に対して校庭や体育館が狭いため、毎日運動できる場所を確保するのが難しかった。 ○朝や登校時等、自発的に挨拶をできる児童が少なかった。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後補習教室の実施・有効活用</li> <li>電子ドリルや東京ベーシック・ドリルの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区診断テストにおける全国平均との差を2ポイントアップ。</li> <li>1、2年生は国語・算数のまとめテスト平均正答率90%を目指す。</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>区診断テストは12月実施(結果は2月)</li> <li>5年生は区から国語強化校に指定され、授業改善を加速</li> <li>1、2年生の1学期末のまとめテストは1年生：国語該当なし、算数91.7%</li> <li>2年生：国語86.5%、算数82.3%</li> </ul>	B	取組の成果が、今後、成績として現れることに期待している。					
	家庭学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した授業の実施</li> <li>ミライシードをはじめとした学習アプリやiPadの日常的な活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸川っ子study week!を実施し、ドリルパークの家庭学習を80%以上の児童が達成。</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年 79% ・2年 97%</li> <li>3年 92% ・4年 91%</li> <li>5年 69% ・6年 95%</li> </ul> 達成できていない学年もあるので、2学期は全学年の達成を目指す。	B	学年によって取り組み率に差があることは気になる。今後、さらに進めてほしい。					
	授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年での教科担任制の実施。</li> <li>研究授業6回実施。</li> <li>OJT研修年10回以上実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査の質問紙調査で算数・国語が「よくわかる」60%以上。</li> <li>授業改善が進んだと実感する教員80%以上</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査の質問紙調査結果は国語：51.5%（都平均比+10.6%）算数：53.7%（都平均比+5.9%）</li> <li>職員アンケートにて授業改善が進んでいると全教員が回答</li> </ul>	A	公開されている授業を参観した時に、子供がよく考えている姿が見られた。今後も推進してほしい。					
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書69回以上。</li> <li>学校応援団と連携した読み聞かせ毎学期実施。</li> <li>各学年12時間以上の読書科授業の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書を「好き」と答える児童70%以上。</li> <li>1日の読書30分以上する児童40%以上。</li> </ul>	A		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書を「好き」と答えた児童81.8%</li> <li>1日読書を30分以上する児童43.9%</li> </ul>	B	今後も活用できるよう、図書館の整備をさらに進めてほしい。					
体力の向上	運動意欲や基礎体力の向上	体育の授業や休み時間における運動遊びなど、主体的な運動の実施による運動意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育科の実技研修学期1回以上実施。</li> <li>体力テスト合計点を全学年とも平均以上。</li> <li>1週間当たりの運動時間420分以上を60%以上。</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動と合わせて生活リズムも大切。2学期は家庭が使用できない中で、校内で行える運動遊びを提案していく。</li> </ul>	B	運動機会を確保するのに、いろいろな工夫を期待。今は習い事で運動している子供はいるが、遊びで運動する子供が減っているようにも見える。					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回のなわ跳び週間の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>70%以上の児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加</li> </ul>	A		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期には持久走大会も計画中。更なる体力向上を期待する。</li> </ul>	B	今の時代、運動の機会を設定しない運動をやらせない、ということも見られる。今後も、いろいろな機会を設けて運動させたい。					
実現に向けた教育の推進	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回指導教員、SC、特別支援Cの連携を深め、個に応じた対応を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回指導教員による2年生全学年への理解教育の実施。</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回指導教員による理解教育は2学期以降に予定。今年度はワークショップ形式で実施予定。</li> </ul>	B	理解教育を通して、子供たちの自己理解が深まることも期待したい。					
	副籍交流の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣特別支援学校に通う児童との副籍交流を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して副籍の児童との交流を実施。</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接交流を希望している児童が1名。6月に音楽の授業での交流活動を行った。</li> </ul>	B	今後も継続して実施してほしい。					
	人間関係の基礎となるコミュニケーションスキルの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体であいさつを励行し、元気でさわやかな挨拶ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「すすんであいさつをする」について児童の自己評価「よくできた」を90%以上、保護者による好評価70%以上。</li> </ul>	C		C	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月実施の児童アンケートにおいて「すすんであいさつをする」と回答した児童89.8%（前年同月比+3%）</li> <li>朝のあいさつなど、さらに意識付けを行っていく。</li> <li>夏休みの課題の1つとしてあいさつ課題コンクールを計画・実施280名を超える参加があった。</li> </ul>	B	あいさつはあった人皆にする、という意識を醸成したい。児童の自己評価は高いが、実感としてはまだ課題があるようだ。 ・あいさつ課題コンクールの取組はとてより。来年度も継続してほしい。					
不登校の対応の充実	不登校、いじめ等への対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導夕会による児童の情報共有を毎週実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関等どこにもつながっていない不登校児童0人。</li> <li>いじめ未解決事案0件。</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>夕会での情報共有は毎週実施。</li> <li>いじめ・不登校対策委員会を月1回実施。</li> <li>今後も関係機関との協力を深め不登校解消を目指していく。</li> </ul>	B	今後も不登校解消を目指して取組を継続することが重要である。					
	エンカレッジルームの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンカレッジルームを活用した登校支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンカレッジ・サポーターを週4日配置。</li> <li>エンカレッジルームの担当教員を毎時間配置。</li> </ul>	A		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンカレッジ・サポーターが配置されたことにより、登校支援の一助となっている。</li> <li>学校に登校させるまでの手立てが必要である。</li> </ul>	B	教室復帰を望むが、今後もエンカレッジルームを活用して、児童の登校支援を継続する必要があると思う。					
学校（園）開かれた地域の実現	○学校（園）ホームページの充実等	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、月に2回以上はHPを更新。</li> <li>tetoruで学校情報をタイムリーに発信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校は、教育活動等の情報を分かりやすく、タイムリーに保護者に伝えている」好評価90%以上。</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年概ね月2回以上更新しているが、学期末の更新頻度が低下傾向にある。</li> <li>tetoruでは、日々の連絡のほかにも不審者情報や感染症の情報など、保護者からの要望の高かったものをタイムリーに発信。</li> <li>保護者評価は12月に実施。</li> </ul>	B	今後も情報発信を継続してほしい。					
	○学校公開の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開を活用して、学校の全曜日の授業を保護者が参観できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開を年4回実施。</li> <li>「学校は保護者の要望を受け止めて対応している」好評価80%以上。</li> </ul>	A		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画通り学校公開を実施。</li> <li>12月には落成記念行事の実施を計画している。</li> <li>保護者評価は12月に実施。</li> </ul>	B	9月の学校公開では、新校舎ということもあり多くの参観者が来校していた。興味深い授業もあったので、今後も継続してほしい。					
	○学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域が学校の教育活動を評価する機会を設定。</li> <li>年3回学校評議員会を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Formsを活用し、毎学校公開後に広く保護者や学校関係者の意見を集め、学校経営の改善に生かす。</li> </ul>	A		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開後速やかにアンケートを実施・とりまとめ全体で共有するとともに、可能なものは速やかに対応している。</li> </ul>	B	保護者の声を生かして改善を進めているため「改善してほしい」という意見が減ってきた。今後も継続し、よりよい学校経営を進めてほしい。					
教育の特色ある展開	「本物の体験」を通して豊かな心を育成	ゲストティーチャーによる授業・体験の実施	各学年、ゲストティーチャーによる授業を実施し、よさを実感することのできた児童90%以上（アンケートによる）。	A		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月まででゲストティーチャーを活用した授業を10回実施。児童の肯定的回答が92.8%である。今後も引き続き児童が「本物」に触れる体験を実施していく。</li> </ul>	A	ゲストティーチャーを生かし、本物に触れる体験をさせることは教育的意義が大きい。今後も続けてほしい。					
	児童の願いを実現する活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>金管バンド、ネオホッケークラブの設置</li> </ul>	1学期に金管バンド、2学期にネオホッケークラブを設置し、児童の満足度90%以上。	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期に金管バンドをスタートさせた。6月の段階で児童による肯定的評価が87.7%。今後、音楽鑑賞発表会や落成式などでの活躍の機会を確保し、達成感を味わえるようにしていく。</li> </ul>	B	どちらも子供たちが楽しみに取り組んでいる。こういった活動の機会を今後も大切にしていきたい。					